

### ところざわの

## 文化財



### 山車まつりと重松流祭りばやし

毎年10月に市内中心部で行われる『ところざわまつり』。各町内から曳かれた山車の上では『重松流』と呼ばれるお囃子が演じられ、まちは大いに賑わいます。

所沢の山車まつりの起源は、山車の購入や制作年代から類推すると、今から130年以上前の明治時代初期ごろまでさかのぼるとされています。当時は、所沢町の鎮守神明社の秋の祭礼で山車を曳いていました。ただし、山車を曳くには多額の費用がかかるため、毎年行われたわけではなく、またすべての町内が参加したわけでもありませんでした。

現在、まつりに参加している山車は、旧所沢町の各町(元町本町、元町東、寿町、有楽町、御幸町、宮本町、金山町、日吉町・東町、旭町)と隣接する西所沢、新井町(西新井町・東新井町)そして皇の宮の合計12基です。このうち、元町本町、有楽町、御幸町の3基の山車は、100年を越す歴史と彫刻などに見られる高い芸術性が評価され、所沢市の有形文化財に指定されています。

山車の上で演じられる重松流祭りばやしは、江戸時代後期に所沢で生まれた古谷重松によって編み出されました。笛、2つのツケ(小太鼓)、オオカン(大太鼓)、鉦の5人囃子を基本構成とし、決まった譜を持たず、すべて口伝で決まり文句を暗唱して身につけていきます。



テンポの良さと、ツケの掛け合いによる軽快で華やかなリズムが、重松流の特徴で、魅力でもあります。

▲修理完了に伴いお披露目された御幸町の山車と重松流祭りばやし(平成17年10月)

▶フランス生まれのニュースポーツ「ベタンク」に、10市3町からの参加者240人が熱中した入間地区に生じ、ボーツ交流大会(撮影/市民カメラマン・中村仁) 9月6日(日)/所沢航空記念公園サッカー場



▲伝統的な大道芸「南京玉すだれ」。テンポのいい口上と芸に、会場は大いに盛り上がりました。9月6日(水)/老人憩の家やなせ荘



## 街の写真館



▲市内から59人の小学生が参加。たくさんの思い出を作り、友情を深めあった第23回所沢サマースクール。8月20日(日)〜26日(土)/栃木県塩谷町・星ふるの学校「くまの木」

## はっぴーとこ 野老子

### 風と気流に乗って・・・

大石 敏之さん(東所沢在住)



『大空を優雅に飛んでみたい!』子どものころに、そんな夢を思い描いたことはありませんか?

少年時代から空を飛ぶことに憧れつづけてきた大石さんは、スカイスポーツの一つであるグライダーに熱中しています。週末になると流線型のコックピットに潜り込み、利根川の河川敷や霧ヶ峰高原の上空を舞い、大石さんは『風』になります。

グライダーには飛行機やヘリコプターのような動力はありません。「優雅に風まかせで飛んでいるように思われますが、狭いコックピットの中では雲の発達と格闘しているのです」と大石さん。

「風や気流という自然とのかけ引きの中、自分の意のままに操縦できたときは本当に感激します」とグライダーの醍醐味を語ります。グライダーにとって気象条件は



霧ヶ峰高原にて

### 能天気な私

山口・寺林 裕子

多少なりともフランス語をかじったからには、せめての友人とパリを訪れたヘルサイユ宮殿、ティヌランド、ブローニエの森と、華の都パリを満喫したところか、帰国当日悲劇がおこった。やめておけばいいのに、まだ足りないと私はシンシントに熱くなってしまった。「アレッ!私の名前?」とアナウンスが流れた気がしたが、能天気な私は買い物続けた。搭乗ゲートに着くや、あなたたちの飛行機は今出ました」とあっさり言われた。涙目になりながら必死で懇願し、なんとか2便遅れで搭乗出来たが、それ以来二度と友人は私と旅行に行ってくれなくなった。

## みんなの広場

### 一口メモ 防犯



#### ～受話器の向こうは、本当のご家族ですか?～

電話口で孫や息子・娘を装い、泣いて助けを求めたり、警察官や弁護士を名乗って相手をだましたり、巧妙な手口で指定の口座に現金を振り込ませる『振り込め詐欺』による被害が続いています。「今日中に!」「何時までに!」と振り込みを急がせるような電話には、十分な注意が必要です。そのような電話があったら一度電話を切り、必ず本人やほかの家

族に連絡し、事実を確認してください。事実が確認できないまま振り込むことはやめましょう。

#### ★★被害に遭わないために★★

- ①落ち着いて対処し、まず事実を確認する
- ②すぐには現金を振り込まない
- ③家族でお互いを確認し合う「合言葉」などを決めておく
- ④不審に感じたら警察に相談する

問い合わせ 防犯対策室(☎2998-9900・FAX2996-0015)



## ボランティア

### 【柳瀬わんぱく広場】

#### ～ボランティアによる小中学生のための『休日教室』～

「柳瀬わんぱく広場」は、柳瀬地区を中心にボランティアがすすめる小中学生のための『休日教室』です。

子どもたちに、家庭や学校ではなかなか味わえない感動体験や学習を提供したい、そして地域の教育力を向上させたいという地域の人たちの願いから始まりました。

土曜日を中心に学校の休日や放課後、主に公民館や児童館を利用し、囲碁教室や書き方教室、料理教室、図工教室などを開催しています。また、ハイキングや施設見学に出かけるなど工夫を凝らした教室も用意しています。材料代や交通費などの実費以外、子どもたちは無料で誰でも参加できます。この「柳瀬わんぱく広場」を支えているのが、47人のボランティアです。定年退職した男性や子育てが一段落した女性も多く活動しています。「できるときに、できることをしましょう」と呼びかけ、地域の多くのボランティアが活動に参加しています。2002年4月から始まり、これまでに延べ223教室、参加した小中学生は、3,000人以上のほります。

柳瀬地区に限らず、このような子どもも大人も楽しめる活動が、さまざまな地域に、そして多くの人たちに広がってほしいと思います。今回ご紹介したグループについて、またその他ボランティア活動に関心のある方は、社会福祉協議会までお問い合わせください。



夏休み工作教室

問い合わせ 所沢市社会福祉協議会(☎2925-0041・FAX2925-0040)

### 異国で出会った邦人

小手指町 加茂 正雄

米国に夫婦で旅したときの恐怖の思い出がある。商店の広さに驚き、食品売り場を見ていると、秋刀魚を買いに来たという日本人女性から、家に遊びに来ないかと親切に誘われた。日本語の懐かしさから、二つ返事で彼女の車に乗り込んだ。車が走り出し、外の見慣れぬ景色を見ているうちに背筋が凍る様な恐怖感に襲われた。一体どこに連れて行かれるのか、いいカモを連れて来たぞ」と、悪党の巣に放り込まれたらと思うとゾッとしたり、家に着くと、娘さんに電話しておいたら」と言ってくれたので、やっとひと安心。疑って申し訳ないと思った。

### マラッカ海峡の夕日

松郷・島村 紀一郎

先日新聞で、「マラッカ海峡で海賊再び急増」の記事を読み、5年前にマレーシアに行ったときのマラッカ海峡で見た夕日を思い出しました。真っ赤な太陽が海に沈んでいく姿はとて美しく、人々から感嘆の声が聞かれます。そして太陽が沈むと妻の顔もほつきり分らないほど、辺り一面は暗く静寂の世界になります。マラッカの沖に目をやると先程まで航行していたタンカーがシルエットでゆっくりと進み、まるで映画の一場面のようなのです。感動で涙が頬を伝わり至福のひとときを味わった思い出の旅でした。マラッカ海峡が、早く安全で安心して航行出来るように祈っています。

### 旅先で知る親心

小手指町・木村 愛子

10年ほど前、母と海外旅行をしたときのこと。宿泊したホテルのトイレの調子が良くなかったため、フロントに知らせたから観光に出かけた。夜、ホテルに戻り、くつろいでいた11時ごろ、ドアの鍵をカチャカチャと開ける音がする。驚いた私がドアの窓穴をのぞくと、そこには大柄な黒人男性がスパナを持って立っているではないか! 私たちが「ノーサンキュー」と叫んでも、男性は手の中に入れチェーンはすぐさしている。「もうダメか」と思った瞬間、フロント係りの声が「...」

次回のテーマは『誕生』です ▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集 ▶はがきに300字以内 ▶文章は添削あり ▶掲載者には記念品を進呈 ▶今回のテーマは「誕生」 ▶締め切りは10月6日(金)必着 ▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記 ▶送り先: 〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係 ◎Eメール (アドレスkouhougenkou@city.tokorozawa.saitama.jp) も可。